

7 平成18年度 横浜市立図書館の目標と予算

この「目標」は、平成18年度教育委員会運営方針に基づき、中央図書館と17の地域図書館が進める事業の内容と取組姿勢について取りまとめたものです。

基本目標

市民の課題解決や暮らしに役立つ情報を提供し、積極的な図書館 サービスを展開します。

目 標	項 目	具 体 的 取 組 (達成時期)
利用者にとって、より便利で快適な図書館を目指します。	身近な公共施設での図書の貸出・返却の試行	●区役所と連携し、試行実施している行政サービスコーナーや地区センターなどでの図書取次ぎサービスについて、事業を検証します。(12月) 【実施事業】■ 青葉区・市が尾駅、青葉台駅、たまプラーザ駅に返却ポストを設置(本の返却) ■ 青葉区・奈良地区センター(1箇所)、旭区・戸塚区の行政サービスコーナー(各1箇所)で本の取次ぎ
	利用者アンケートの実施	●来館者を対象としたアンケートを行い、利用者のニーズの把握に努めます。また、その結果を公表します。(9月)
	利用環境の改善	①障害のある方のための「コミュニケーション支援ボード」を作成し、利用のバリアフリー化に努めます。(12月) ②多言語での利用案内・館内案内を作成します。(12月)
	公共情報端末の設置の試行	●地域図書館で、利用者が自由にインターネット情報を閲覧できる公共情報端末を設置します。(12月、地域図書館5館で実施)
	安全で快適な環境づくり	①ISO14001の取組を進めます。(通年) ②利用者のマナーが向上するように働きかけを行います。(通年) ③中央図書館におけるESCO事業の実施を検討します。(12月) ④戸塚図書館の耐震工事等を進めます。(12月から実施)
	収集基準の公開	●図書館資料の収集基準を図書館ホームページ等で公開します。(12月)
市民の調査研究を支援するとともに、図書館からの情報発信に努めます。	図書館ホームページの充実	①コンテンツの充実などを通じて、図書館ホームページによる情報発信を積極的に行います。(12月) ②子ども向けホームページを開設します。(12月)
	企画事業の実施	①図書館の機能や所蔵コレクションの紹介を目的に、中央図書館で見学会を開催します。(年3回実施) ②中央図書館1階展示フロアを活用し、地域情報や市政情報の展示・公開を行います。(12月) ③各図書館で教科書展示会を開催します。(6月～7月)
	外国人市民へのサービスの向上	●ハングル・中国語の資料のパソコンによる検索を検討します。(12月)
	ビジネス支援の強化	●ビジネス関連情報の充実に努めます。(通年)
	市民の調査研究への支援	①Eメールでのレファレンスを引き続き進めます。(通年) ②ホームページで公開しているレファレンス事例集をさらに充実させます。(通年) ③市民を対象に初心者向けの情報検索講座を開催します。(12月) ④市立大学との図書の相互利用を進めます。(12月)
	行政への支援	●市政の業務遂行に必要な資料・情報を提供することで、行政サービス向上のための支援を行います。(通年)
	課題解決に役立つ情報の提供	●インターネット上の情報を積極的に収集し、使いやすい形にして提供します。(通年)
	横浜関連資料の収集・保存・活用	①行政資料や郷土資料のほか地域情報の収集に努め、市民が必要とする情報を提供します。(通年) ②文化財課と連携し、郷土資料等の企画展示を実施します。(年度内、5館で実施)
	開港150周年事業に向けた取組み	●所蔵している開港当時の歴史資料を公開します。(年度内)

目 標	項 目	具 体 的 取 組 (達成時期)
<p>学校など図書館以外の機関・団体との連携・支援に努め、子どもの読書活動の推進を図ります。</p>	子どもの読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ①「横浜市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動の活性化に努めます。(年度内) (学校図書館支援／図書リストの作成・配付／おはなし会の充実／読み聞かせボランティア支援等) ②子どもの読書活動を推進するため、読書記録カードを配布します。(12月) ③福祉保健センターと連携して、乳幼児向けのお話会を実施します。(通年)
	ボランティアの養成・支援、市民との協働	<ul style="list-style-type: none"> ①読み聞かせ等ボランティア養成講座を6回実施します。(12月) ②読み聞かせ等ボランティア交流会を6館で開催します。(12月) ③図書館におけるボランティア活動の範囲の拡充を検討し、モデル的に実施します。(12月) ④市内の読み聞かせボランティアグループに講師として司書を派遣します。(通年)
	学校教育への支援	<ul style="list-style-type: none"> ①司書教諭向けの研修会を開催します。(年度内) ②学校図書館向けの新刊情報を提供します。(年度内) ③平成17年度に開始した教職員向け貸出制度の普及に努めます。(通年) ④児童生徒の図書館見学、職業体験に協力します。(通年)
	家庭教育への支援	<ul style="list-style-type: none"> ●親子で参加できる講座を開催し、幼児を持つ保護者の読書活動を支援します。(年度内)
	保育園・幼稚園への支援	<ul style="list-style-type: none"> ①保育園・幼稚園等の乳幼児向け図書の購入選定を支援します。(年度内) ②保育園・幼稚園への図書貸出について検討します。(年度内)
<p>図書館スタッフのレベルアップを行うとともに、これからの図書館を視野においた取り組みを進めます。</p>	「横浜市立図書館のあり方懇談会」の設置	<ul style="list-style-type: none"> ●有識者等で構成する「図書館のあり方懇談会」を設置し、図書館経営や図書館サービスのあり方等について検討します。(年度内)
	窓口対応の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者へのあいさつ・声かけを励行し、親切・ていねいな対応に努めます。(通年)
	職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の要望等に十分に答えられるよう専門研修を実施します。(通年)
	効率的な図書館運営と財源確保	<ul style="list-style-type: none"> ●管理運営経費の節減に努めるとともに、広告事業等により自主財源の確保を図ります。(通年)

(注)

- ①コミュニケーション支援ボード：自閉症や耳に障害のある人などが、自分の言いたいことを相手に伝えるための
- ②ISO14001：企業や自治体などが行う事業活動が環境にあたる影響を、組織的かつ継続的に削減するた
- ③コンテンツ：データベースに蓄積されたデータや画像・音声データなどの内容・中身の事。
- ④レファレンス：利用者の調べものや資料の相談などに対し、必要とする図書館資料の紹介や提供、情報入手の手

ボードで、簡単なことばやイラストが描かれているもの。
 めの管理システムを定めた国際規格のこと。
 助けを行うこと。

平成18年度 図書館サービスの数値目標

- 横浜市立図書館では、図書館サービスの向上を図り、図書館の目的や図書館の社会的使命を達成するため、これに係る「指標」を選定し「数値目標」を設定します。
- 図書館サービスの数値目標の達成状況等について自己点検及び評価を行い、その結果を市民の皆さんに公表します。

指 標	数 値 目 標 (前年度の実績)	備 考
1. 入館者数	年間 9,580,000人 現状維持 (年間 9,576,100人)	●入館者数は減少傾向にありますが、一人でも多くの人に来館してもらえるよう図書館の魅力づくりとPRに努めます。 ●市民1人当たりの来館回数は2.67回です。
2. 個人への資料貸出数	年間 11,500,000点 1%増 (年間 11,396,788点)	●資料貸出数はここ数年横ばいの状況です。 ●図書館の資料や利用方法に関するPRに努め、図書館を利用したことがない人や利用頻度が低い人の利用・資料の貸出を促します。
3. 利用者満足度	70%以上	●利用者アンケートを実施、図書館サービスに対する満足度を調査し、業務等の改善につなげます。
4. レファレンス回答件数	年間 193,000件 5%増 (年間183,691件)	●レファレンスは利用者と資料・情報をつなぐ図書館の重要な業務です。一層のPRに努めて、より多くの人の相談に応えます。
5. Eメールレファレンス回答件数	年間 410件 5%増 (年間 393件)	●ITの進展に伴い、さらに利用の増大が見込まれる電子メールでの相談に応えます。
6. ホームページアクセス件数 (蔵書検索を除く)	年間 4,120,000件 20%増 (年間 3,436,192件)	●利用案内のほか、情報発信や画像による資料紹介など図書館のさまざまな魅力を紹介しています。 ●さらに見やすく、市民の興味を引くホームページを作成し、図書館利用の契機となるよう努めます。
7. ホームページ蔵書検索数	年間 4,700,000件 20%増 (年間 3,910,981件)	●所蔵資料を市民が十分に活用できるよう、検索しやすい画面作りに配慮して市民の資料要求に応えます。
8. 職業体験受入れ生徒数	年間 300人 10%増 (年間 273人)	●図書館での接客や業務を通して、生徒の職業体験の機会を提供します。
9. 児童・生徒の図書館見学者数	年間 7,000人 現状維持 (年間 7,000人)	●図書館の役割や上手な利用方法を説明し、図書館への理解を深め、併せて子どもの読書活動推進の一助とします。 ●児童・生徒の調べ学習に協力します。
10. お話会・展示会など自主企画事業数	年間 800件 2%増 (年間 786件)	●図書館の資源(資料、司書、施設)を活用し、情報を編集・発信することにより、市民の生涯学習ニーズに応えます。

平成 18 年度 横浜市立図書館の予算

今年度も、市立図書館 18 館の効率的な運営に努めるとともに、図書館情報システムを活用した調査研究支援や情報発信など市民サービスの充実を図ります。

昨年度に引き続き、市民利用施設等での図書館資料の貸出・返却について試行調査を行います。また、戸塚図書館の耐震補強工事について計画を進めます。

【平成 18 年度 図書館の運営】 (単位：千円)

下段()内は平成 17 年度予算額

中央図書館運営費	844,147
・中央図書館の施設管理・運営、広報、研修等	(828,265)
・図書館情報システムの運用	
地域図書館運営費	246,543
・地域図書館 17 館の施設管理・運営等	(282,470)
資料収集事業費	342,821
・図書館資料の収集・整理	(382,121)
・図書館資料を管理するための書誌データの作成等	
中央図書館利用者サービス事業費等	72,473
	(110,272)
中央図書館利用者サービス事業費	50,990
・中央図書館における資料の貸出・閲覧等の利用者へのサービス事業	(39,117)
移動図書館事業費	2,310
・移動図書館(はまかぜ号)の維持管理・運営等	(1,990)
障害者支援事業費	9,173
・対面朗読、個別録音テープ吹込み等の障害者への支援事業	(15,220)
図書館施設営繕費	10,000
	(10,000)
地区センター等ネットワーク試行調査事業費	2,767
・地区センター等での図書館資料の貸出・返却について課題を検証するため、3区でモデル的に試行調査	(2,767)
地域図書館の耐震補強工事費	114,000
・戸塚図書館(公会堂、地区センターとの複合施設)の耐震補強工事	(5,506)